

別紙「おおふなとーくルーム ～市長と語る座談会～」参加者意見まとめ

区分：①若手経済団体及び若手経営者、②農林水産業者、③子育て世代及び子育て関係者、④高校生

No.	区分	内 容
1	①	大船渡市ゆかりの有名人のPRが足りない。ブランディング価値の導入を。
2	①	最寄りの駅から、大船渡市へのアクセスが悪い。首都圏からのアクセスが足りない。
3	①	魅力の売り出し方が下手。価値を加えて、高価格で売り出しする必要がある。
4	①	高価格の贈答品など、トップセールスの強化をしていく必要がある。
5	①	前のめりの方が多いが、点の魅力にしかっていない。線、面の魅力発信が必要。
6	①	気仙 3 地域観光交流の促進、魚市場で朝市を開催したい。
7	①	漁業に特化したスポーツの提案、ダイエットルートの提案など。
8	①	大漁旗をプリント利用してはどうか。
9	①	道路の整備、三陸沿岸道への県病付近からの出入口を整備して欲しい。
10	①	山を削って、平らな土地を整備して欲しい。
11	①	郷土芸能の継承。まつり等で郷土芸能をもっと出演させて欲しい。
12	①	市内の体育施設とゆめアリーナ（陸前高田市）などの利用について気仙地域で広域連携を深めて欲しい。
13	①	高校の統合について、実業高校の必要性はある。実業学科と普通科を確保維持して欲しい。
14	①	サンリア・盛商店街の賑わいを。
15	①	珊瑚島の活用をして欲しい。
16	①	高価格サービスを富裕層対象に提供を。
17	①	子どもたちが仕事の職種を知らないようなので、子供向けの職業体験施設の提供を。
18	①	学校統合によって学校での地域活動の機会が減少している。選択制でもよいので、そのような機会を設けて欲しい。
19	①	女性経営者等の集う発言の機会を増やして欲しい。
20	①	風力発電施設を建設してほしい。波及効果で飲食店が潤う。
21	①	漁業、飲食店のアルバイトがいないので多くの学生を確保するためにも、北里大学の復活をお願いしたい。
22	①	民泊活動推進団体への補助、行政支援をお願いしたい。
23	①	教育委員会に対して、働く場を情報提供する授業の設置をお願いしたい。
24	①	気仙丸について、定期的に帆を張れないかなと。記者会見の背景にしてはどうか。シンボリックにしてはどうか。
25	①	本庁舎をブランド化して観光地に。宮崎県庁のように。
26	②	貝毒は本当に切実な問題。
27	②	サンマが強いのはいいが、二の矢三の矢が欲しいところ。市でもPRを積極的にお願いしたい。
28	②	市外から来られた方は新しい視点を持っており、「漁師と話をするだけで観光資源になる」というお話などをいただいた。
29	②	「外から見る目」での再発見があると交流人口拡大につながると思う。
30	②	内陸とのアクセスについては改善を望む。
31	②	農業を生業としている方にとって輸送コストの上昇は深刻。
32	②	鳥獣被害も、対策しなければ農業者はやっていけないという声がある。鹿、サル、クマへの対策が必要。
33	②	沿岸全体についてだが、耕地が狭く規模が拡大できない＝効率が悪い点。農業で生計をたてるのは難しく、兼業農家が大半を占めている。後継者不足。
34	②	人口が減り高齢化が進み、若い人が林業に入ってくることがなく、担い手が少ない。
35	②	漁業について、一番の弱みは後継者不足と思う。後継者確保や新たな参入者などの対策を積極的に進めて欲しい。
36	②	農林も水産も事業として成り立つものであり、「仕事のサイクルやビジネスモデルについて知る」機会が必要。
37	②	若手として企業同士の連携をできたらいいと思う。事業者はそれぞれライバルであるが、困難に直面した際に、各社一丸となって水産業をよりよくしていけるのでは。
38	②	新規就労はどんどんしてほしいが、給料を出すとなると受け入れは難しい面がある。陸前高田では大手水産会社が生徒を受け入れている事例があるが、大船渡で可能なところは少ないと思う。収入の安定を目指すところから始めなければならない。

別紙「おおふなとーくルーム ～市長と語る座談会～」参加者意見まとめ

区分：①若手経済団体及び若手経営者、②農林水産業者、③子育て世代及び子育て関係者、④高校生

No.	区分	内 容
39	②	大船渡の野菜は品質がよく、出荷している関東等での評価は高い。需要はあるが生産が追いついていない。
40	②	農業への興味を持ってもらい、さらに後継者を育成するため、農業に触れてもらう見学ツアーや、こどもに農業を体験してもらうイベントを実施している。
41	②	林野火災を経て、防災の重要性を感じた。組合では被災地復旧に努めているが、木材の利用促進も進めたい。
42	②	東高校での林業体験の実施やドローン測量、林業機械の体験など、若い人たちに森林の大切さを引き続き伝えていきたい。
43	②	地域住民が健康でいられる地域づくりに取り組んでいきたい。
44	②	休耕地を太陽光事業者が買い取っている事例があると聞き心配。
45	②	防災力の強化を望む。防災行政無線は、先日の津波警報発表の際にも聞こえづらいところがあった。越喜来漁港内では聞こえない。放送後も知らずに水門内に残された人もいた。
46	②	イベントを増やしてほしい。産業まつりなどはあるが、市民体育館でやっていた以前より規模が小さくなったと思う。もっと大きめに、業者も多く。
47	②	若い人たちが魅力を感じるのは体験ツアーのようなイベント、農業体験、漁業体験では。それらを1泊2日で行うようなものがあれば、市内の宿泊業者などにもいいと思う。
48	②	大船渡市は輸出が少ない。港を有効活用してほしい。
49	②	各業界で「こういう困りごとがある」という声があれば、市でそれにレスポンスを返して反映して欲しい。
50	②	子育て世代、若い人への支援、「大船渡に住んでいることによる大変さ」を感じないようなサポートを望む。
51	②	今回の「市長と語る座談会」、距離が近いのは大変いいことと思う。ここで出た意見や要望に対して「こうしました」という結果を返して、発信してほしい。
52	②	娘が吹奏楽部で活動しており、産業まつりや客船イベントにも参加しているが、楽器が非常に古く劣化しており、昭和のものもある。修理しながら使っている状況。他の学校と比べるとあまりにも…学校生活を豊かに送って欲しいので何か配慮いただければ。
53	②	人口を増やす対策を望む。そのために交通アクセス、子育て環境、病院なども、安心して暮らせるまちづくりを。自然豊かなまちのPRを積極的にお願したい。
54	②	鳥獣害対策を望む。イノシシも出てきており、鹿よりも悪質で繁殖力も高い。対策できないと農業の継続も難しくなると思う。
55	②	令和10年度から部活動が地域移行となるが、現状でも中学校の部活の存続が大変なところ、なくなってしまうと再度立ち上げるのは困難。スポーツ協会や各協会が集まって全体で話し合いをするなどが必要なのでは。
56	②	林業の担い手確保のための取組。林業にもアカデミーがあり、自分でお金を出して学び研修するが、その参加者が増えてほしい。
57	②	行政との連携で、地域の山を守り、水産や農業と連携できる場を市に後押ししてほしい。
58	②	市の職員が元気でなければ各種施策も進まないと思う。懇親の場をもってコミュニケーションを盛んにして、がんばってほしい。
59	②	ふれあいランドには様々な人が訪れ、楽しんでいる。立派な遊歩道があり生産森林組合としても支障木撤去をしているが、利用している人が少ない。トレイルなどでもっと活用を。
60	②	市道、林道上の松枯れがひどく、海岸沿いの松は軒並み赤くなって倒れそうなものが多い。海に落ちると引き上げも難しく、養殖施設への被害なども考えられる。道路管理などで考慮してほしい。
61	②	夢海公園の樹について、支えているワイヤー3本のうち1本が腐食してしている。小さいこどもが遊んでおり危険と思うので早急に直していただければ。
62	③	少子化が進行。日頃市保育園では入園者なしとなっている。
63	③	住むには良いが、遊ぶとなると、年齢が上がるにつれて適した場所やイベントが少なく感じる。
64	③	子ども用品を扱う店が少ない。未就学児の遊び場は充実しているが、中高生が利用できる場所は少ない。
65	③	若い人が「ここで生活しよう」「友達とどこへ行こうか」と思える魅力的な店・施設が少ない印象。
66	③	小学生以上が遊べる場所が乏しい。以前住んでいた山形県では、各自治体に屋内レジャー施設があり助かっていた。
67	③	漁業が盛んだが、それ以外の職を求めて若い人は市外へ行ってしまう。
68	③	小学生の居場所が少ない。放課後に遊びに行ける場所が乏しい。学校に行きにくい子ども向けのフリースクールなども不足。

別紙「おおふなとーくルーム ～市長と語る座談会～」参加者意見まとめ

区分：①若手経済団体及び若手経営者、②農林水産業者、③子育て世代及び子育て関係者、④高校生

No.	区分	内 容
69	③	港を生かした観光客向けイベントがあると良い。交通インフラがもう少し欲しい。
70	③	一人ひとりの声を柔軟に聞いてくれる行政、地域の特色を生かした施設づくりや地域づくりをお願いしたい。
71	③	個人が自由に選択できる大船渡市に。リカレント教育の充実。将来、子どもがUターンして水産業や農業を、学びたいと言うかもしれない。
72	③	大人になった後に「大船渡に戻りたい」と思ってもらえる大船渡市に。そのために、水産業だけでなく、さまざまな働き口があると良い。
73	③	多様な働き方ができる企業が増えると良い。市外で就職した人や、市外の人にも「住みたい」と思ってもらえる大船渡市に。
74	③	「自然がたくさんあるのに、どうしてみんな市外に行ってしまうのか」という話を、学童の子どもから聞くことがある。自然を生かしたレジャーがあると良い。また、経済的に学童に行かせられない家庭への助成などもあると助かる。
75	③	子育てしやすい環境は大事だが、医療面が不安。小児科が減ってしまい、子どもが体調を崩したときに連れて行く場所がない。また、小中学校から祖父母との同居を前提とした対応を求められることがあるため、核家族を考慮した制度が欲しい。
76	③	子どもがスポ少をしている。物価高や大会参加費の増加など、負担が増えている。また、屋内のスポーツ施設（体育館等）が不足している。
77	③	子どもが、学校でも家庭でもない場所（フリースクールのような）に通える環境ができると良い。
78	③	「宮城県県民の森」のように、山ひとつが丸ごとアスレチックになっている施設がある。大船渡にも、そのように体を動かせる場所があると良い。
79	③	給食日数については維持してほしい。ご飯やおにぎりのみを持参する形でもよいのではないかと思う。
80	③	金銭的に厳しく、給食で栄養を補っている家庭もある。
81	③	乳製品アレルギー対応のため、給食から牛乳を外した市がある。
82	③	小学生以上になると親に連れて行ってもらう機会が少なくなるため、仲間内だけで行ける遊び場が各所にあると、行きやすいと思う。
83	③	中学・高校の制服の価格が高く、補助をいただくと助かる。
84	③	近所の管理されていない空き地や空き店舗が、よくない目的に使われるおそれもあることから、市でも把握や管理について働きかけをして欲しい。
85	④	BRTや三陸鉄道の本数が少なく、時間帯も不便。
86	④	大船渡の特徴やブランドイメージがないので、発信が必要では。
87	④	大都市からのアクセスが悪い。
88	④	公共交通機関が弱く、新幹線からの乗り継ぎも悪い。仙台市からも車で2時間半かかる。
89	④	平地が少なく、土地の制約が多い。
90	④	イベント、郷土芸能が多いこと、それらにより地域の交流ができています。
91	④	公共交通の不便さ。通学路の街灯が少なく安全面で不安。
92	④	情報発信力やPR不足なこと。地元の良さを感じていない人が多いと感じる。また、地域間格差があり、大船渡市中心部にイベントが偏っていること。
93	④	バスの本数が少ない、若者が遊ぶ場所がないこと。
94	④	あまり人の目が届かないからか、ゴミのポイ捨てなどが多い。
95	④	三陸鉄道の本数が少ない、市内に空き地が多く、サッカーグラウンドはあるが広い空き地がありそれらをどうするのか…。
96	④	サンリアなどに、もっと若者向けの店が欲しい。
97	④	交通が不便なところ。三鉄やバスの本数が少なく不便。
98	④	買い物をする際など、商業施設が少ないこと。こども向けの店を増やして欲しい。
99	④	進学でいなくなった若者が戻ってくるようになってほしい。そのために、給付型の奨学金（条件付き、所得制限なし）を望む。条件は市内の企業に就職することなど。
100	④	災害が風化しないまちになってほしい。震災や林野火災について、産業まつりで写真展示はあったが、そのような機会の充実を。
101	④	人と人とのつながりにフォーカスして、その良さを発信して欲しい。
102	④	地域連携について強みで先ほど挙げられたが、大船渡高校でも「大船渡学」に取り組んでいて、進学や、地域や社会に対する理解を深めることにつながる機会であると思う。連携して実践的な活動に取り組めたらいいと思う。市としても学生が興味を持てるような宣伝、アピールに力を入れてもらいたい。
103	④	「少子高齢化」が出たが、子育て世代への支援の拡充を。子育て世代が住みやすいまちにしてほしい。

別紙「おおふなとーくルーム ～市長と語る座談会～」参加者意見まとめ

区分：①若手経済団体及び若手経営者、②農林水産業者、③子育て世代及び子育て関係者、④高校生

No.	区分	内 容
104	④	学生に対する支援で、中学生まではいろいろ支援制度があるが高校になるとあまりないので充実させてほしい。海外派遣の活動などにお金がかかり、参加機会に差が生じてしまっている。
105	④	高齢者が社会の役に立てる機会の確保のほか、空き家の整備（管理）など。高齢者の歩く習慣が少ないと思う。また、温暖化で水揚げされる魚種が変わっているので、名産（品）を変えるなどの対応も必要と思う。
106	④	災害に強いまちづくり、地産地消を盛んに、自転車道が欲しい。
107	④	内陸から大船渡へのアクセスが悪い。また、観光客などにとってアクセスが分かりにくいので、マップがあると良いと思う。
108	④	イベントが盛んなので観光と地域行事を融合するのもいいのでは。地域のお年寄りにも興味を持ってもらえと思う。
109	④	もっと町おこしを。PRを増やしたり交通の便を良くしたり、イベントを増やしてほしい。
110	④	小さい子どもや学生に、いろいろな経験をしてほしい。海外派遣や企業見学で、小さい頃のそういった経験が後の価値観につながると思う。
111	④	食物文化科を残して欲しい。調理師だけでなく、やりたいことを見つけられる学科だと思う。地域の食材を使いながら学ぶことができる。
112	④	食物文化科を残して欲しい。料理を学ぶだけでなく、介護職など多くの分野に欠かせない。
113	④	食物文化科を残して欲しい。中学生のときに知り、食の道に進むのが夢になった。調理師になりたいという人のためにも必要。
114	④	食物文化科を残して欲しい。生徒会活動を含め、同科がひっばっていると思う。越喜来漁協と協力して未利用魚の活用研究もしているなど、4学科の中で最も地域貢献できていると思う。
115	④	食物文化科を残して欲しい。自分は、卒業と同時に調理師免許を取得できるため入学した。調理室は充実していて環境が整っている。科がなくなったら調理師になる夢をあきらめる人が出てくると思う。
116	④	食物文化科を残して欲しい。管理栄養士を目指している。学んだ知識、経験を活かして、栄養面だけでなく食の楽しさも伝えたい。地域課題型研究では未利用魚を使い子供への食育も実施している。地域に貢献したい。
117	④	盛商店街に空き店舗があり、東高校の野菜を販売したら、という声がある。販売を通して交流経験につながったらと思う。
118	④	防災と地域の活性化を両立するために高校生ができることは、また、若者が地元に残るためには何が必要か。廃校舎が増えている。甫嶺はBMXなどに使われているが、他の学校の利活用は無いかな。
119	④	大船渡市のホームページで人口ビジョンを拝見した。人口減少率が緩やかになるというシミュレーション結果だったが、今後転出などを減らすための対策はどのように考えられているかな。
120	④	将来、人とのつながりにフォーカスして地元で地域ブランドを生み出したい。それは人口減少が進んでいる中で交流人口を増やして循環することで大船渡市民の幸福度につながると思うから。地域ブランドを作るにあたり「大船渡といえば」というアピールしたいものがあれば教えて欲しい。
121	④	学校統廃合で廃校舎が増えている。甫嶺はBMXなどに使われているが、他の学校の利活用は無いかな。
122	④	自分たちのボランティアの活動として、10万円を使って何か貢献できることがないかな。
123	④	授業で、貝塚に行く野外活動の発表機会があったが、知らない人が多かった。若い人に参加してもらい、そういう地元の良さを発信したい。
124	④	市内にはどんな（ボランティアが参加できる）イベントがあるかな。
125	④	下船渡に住んでいて、BRTは便利。立根方面に行くには、県交通は金額が高いなどで使いづらい。ちょうどいい便もない。